

(2) 遊びの指導

「遊び」は活発な身体活動や友達との関わりなどを促し、意欲などを育てます。知的障害が重い場合や、特に就学直後をはじめとする低学年においては、子どもの発達の段階に合わせて「遊び」を中心とした活動を取り入れます（小学低学年から中学年が妥当です）。

場や遊具等が限定されることなく、子どもが比較的自由に取り組む遊びから、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件が設定された遊びまで、連続的、計画的に設定されることが大切です。

遊びの指導は、自由遊びと課題遊びとに分けることがあります。

自由遊びは、一定の条件の場や遊具などが限定されることなく、児童が自由に取り組む遊びです。一方、課題遊びは、砂、水、紙、粘土、段ボール、積み木、ボールなどで設定した一定の場や遊具などで、一定の課題に沿って取り組む遊びです。これらの課題が、生活単元学習や音楽、図画工作、体育などの学習の課題へと移行し、発展していきます。

◆指導の際に配慮したいこと

- 子どもが主体的に遊ぼうとする環境や、教師と子ども、子ども同士の関わりを促すことのできる場を設定します。
- 身体活動が活発に展開できる遊び、室内での遊びなど、子どもの興味や関心に合わせた内容、環境を設定します。
- 子どもの健康面や衛生面に配慮し、安全に遊べる場や遊具を設定します。
- 時間いっぱい十分に遊べるように展開の仕方を工夫します。
- 自ら遊びを取り込むことが難しい子どもには、いろいろな遊びを経験できるように促し方や誘い方を工夫します。

